大会報告

平成26年度の日本動物学会中部支部大会が、11月22 日（土）から24 日（月）の3日間の日程で、金沢大学の臨海実験施設が担当して、能登で開催いたしました。本大会では基調講演3件、シンポジウム講演8件、口頭発表26件、ポスター発表22件の合計59件の発表がございました。3日間の参加者も合計173 名でした。多くの方々にご参加・研究発表いただき、とても活発な討論が行われて、充実した大会となりました。これもひとえにご講演ならびにご参加していただいた皆様のおかげと思っております。実行委員一同お礼申し上げます。

初日の能登海洋教育フォーラムは、東京大学 海洋アライアンス・海洋教育促進研究センターとの共催、日本財団の後援で開催しました。また能登町町長（持木一茂町長）と能登町教育委員会教育長（中口憲治教育長）のご臨席も賜り、能登町の海洋教育にかける意気込みを感じることができました。東京大学の赤坂甲治先生の基調講演を皮切りに、能登町の海洋教育の取り組みに関する講演5件の他、神奈川県三浦市教育委員会の講演は、能登町にとって来年度からの海洋教育の実施に際してたいへん参考になったものと思っております。

午後からは、石川県のみならず富山県、福井県、三重県の高校8校による発表があり、さらに地元の能登町の柳田中学校と珠洲市の宝立中学校の2校がポスターで発表しました。生徒たちがとても熱心に質問をしていたことが印象的でした。

2日目は、本大会がのと勤労者プラザで開催されました。学生の発表は23件（口頭発表7件、ポスター発表16件）あり、学生が積極的に参加・発表した大会でした。基調講演として沖縄科学技術大学院大学の佐藤矩行先生をお招きして「動物の分類体系を考え直す：ゲノム科学・発生進化学の立場から」というタイトルでご講演いただきました。発生進化学とゲノム科学を融合した研究から、脊索動物を水腔動物と同じ上門とし、頭索動物、尾索動物、脊椎動物を亜門から門へ格上げするという系統学上の新たな提言をいただきました。さらにシンポジウムでは、「海産無脊椎動物研究の最前線」というタイトルで、若手の研究者が海産無脊椎動物を中心とした最新の研究について講演があり、海の動物を研究する意義と面白さが皆様に伝わったものと思います。

3日目は、会場を能登町の宇出津に移し、宇宙関係の一般向け公開講演会「宇宙ではなぜ骨が弱くなるのか？」を開催しました。この講演会では、JAXAから研究者を招き、さらに3名の講師による骨に注目した最新の宇宙実験の話をしていただきました。能登の天文台（満天星）からは、満天星でのエクスカーションにおいて詳しい解説があり、星についての理解を深めることができました。奥能登の市民も、宇宙のことを満喫できたものと思っております。

来年度の大会は、後藤太一郎先生を中心とする三重大学の先生方のご担当で、11月下旬から12月上旬に開催される予定と聞いております。来年度もまた多数ご参加いただけることを祈念しております。

本大会では、博士後期課程、博士前期課程、学部生に分けて各研究発表の審査を行いました。高校生の発表では、大会委員長賞（最優秀発表賞）を2校に授与しました。受賞された皆様、誠におめでとうございます。発表者ならびに発表題目と合わせて受賞報告をさせていただきます。

平成26年度　公益社団法人日本動物学会中部支部大会（能登）実行委員会

鈴木信雄、関口俊男、小木曽正造、又多政博、谷内口孝治

学生発表

最優秀発表賞　1件

優秀発表賞　9件（口頭4件、ポスター5件）

高校生発表

大会委員長賞2件、優秀発表賞8件

中学生発表

優秀発表賞2件

最優秀発表賞

　井上享也（富山大学・院・理工）

「ドーパミンはネバダオオシロアリの職蟻の行動を制御することで兵隊分化に影響

を及ぼす」

優秀発表賞（博士前期課程口頭発表の部）

上西篤志（金沢大学・理工・臨海）

「骨モデル（魚のウロコ）に対する放射線の影響解析」

倉田 歩（富山大学・院・理工）

「タバココナジラミ菌細胞は、体細胞とは異なるゲノム組成をもつ!?」

優秀発表賞（学部生口頭発表の部）

佐藤将之（金沢大学・理工・臨海）

「重油汚染海水の魚の骨芽細胞及び破骨細胞に対する影響評価」

半本泰三（金沢大学・理工・臨海）

「骨モデル（魚のウロコ）を用いた超音波の骨芽細胞及び破骨細胞に対する応答」

優秀発表賞（博士後期課程ポスター発表の部）

　　柴田侑毅（静岡大学・創造科学技術大学院）

「カエルツボカビ（*Batrachochytrium dendrobatidis*）が無尾両生類の皮膚を介した

水透過性に与える影響」

優秀発表賞（博士前期課程ポスター発表の部）

　　箕口昌杜（金沢大学・理工）

「初期応答遺伝子*Hr38* はショウジョウバエの長期記憶において重要な役割を果たす」

佐藤優希（金沢大学・理工）

「*Dhr38* を用いたキイロショウジョウバエの神経活動の可視化と定量化」

優秀発表賞（学部生ポスター発表の部）

谷口詩穂（金沢大学・理工・臨海）

「カタユウレイボヤにおけるcioninおよび受容体の発現解析」

東北考史（富山大学・理）

「SSR解析により示されたキゴキブリ*Cryptocercus punctulatus* のつがい外交尾の可能性」

高校生発表

大会委員長賞

前田皐介1・伊藤康烈1・栗林和輝1・北野ひかる1・加藤麻衣1・前田記里1・

小林凌雅1・橋本輝己2（1福井県立鯖江高等学校・2生物クラブ）

「スカシカシパンの潜行行動における砂の動き」

　　佐藤晴海1・伊藤 敦1・野呂勇希1・山田一輝1・後藤拓真1・山本晃輔1・

西飯信一郎2・安田拓真2（1鈴鹿高等学校自然科学部・2鈴鹿高等学校自然科学部問）

「ネコギギの個体識別から分かること－鈴鹿川水系の環境調査ⅩⅡ－」

　優秀発表賞

　　善端大貴・前 千尋・松井健悟（石川県立七尾高等学校2 年）

「メダカの追随行動」

前田皐介1・伊藤康烈1・栗林和輝1・北野ひかる1・加藤麻衣1・前田記里1・

小林凌雅1・橋本輝己2（1福井県立鯖江高等学校・2生物クラブ）

「スカシカシパンの潜行行動における砂の動き」

尾谷知宥・藤田 集・山本瞬斗（石川県立能登高等学校）

「自然豊かな能登半島 底延縄に挑戦」

福山真菜（福井県立高志高等学校2年）

「ゼブラフィッシュの学習行動の習得について」

佐藤晴海1・伊藤 敦1・野呂勇希1・山田一輝1・後藤拓真1・山本晃輔1・

西飯信一郎2・安田拓真2（1鈴鹿高等学校自然科学部・2鈴鹿高等学校自然科学部問）

「ネコギギの個体識別から分かること－鈴鹿川水系の環境調査ⅩⅡ－」

上野寛生・手塚大貴・石坂祐希・横井海星・岩崎凌吾・磯 雄翔

（富山県立富山中部高等学校・SS生物部）

「セミの羽化に関わる条件について」

時長克也・持平拓朗・吉田拓矢・白坂香織・西原亜衣・矢鋪愛海

（石川県立飯田高等学校）

「里山に生きる動物の命」

吉村浩希・竹村大輔・新田美優・松宮菜々子（福井県立若狭高等学校）

「海底湧水と生物の関係 ～研究Ⅰ 貝類と珪藻類の研究～」

中学生発表

優秀発表賞

　濱出大樹・新田恵佑・米澤 優（珠洲市立宝立中学校）

「アリジゴクの「巣穴」について」

畑中 雛・干場麻衣・山根紗希（能登町立柳田中学校２年）

「烏賊の解剖」